

# 森のくまさん



連日、全国各地からクマのニュース。私が住んでる地域も毎日のように、すぐ近くの道や山で誰かが見かけているようです。エサ不足で里に下りてきているなどの報道でも「じゃあそうしたの誰か」はほとんどニュースにならず、クマを駆除したなどそんな事ばかり。確かに人に危害をくわえたり、作物を荒らしたりは駆除せざるを得ないのかもしれませんが、それでいいのかと色んな文献を読んでみました。

“熊は森の守護獣”クマが作った熊棚は樹上性の小動物の棲家になり、枝を折り取ることで日光が林の中に差し込まれ植物の生育に役立っている。消化されなかった木の実の種子を多く含んだフンを広範囲に落とし樹木の拡散や更新にも貢献している。ヒグマが食べた鮭などの排泄物が川や海も豊かにしてくれている。”

私たち人間が地球温暖化を加速させ環境を変化させ、生息地を減らしたり、人工林を植えエサとなる木の実を減らしたり、たくさんの生き物の棲家を奪っている。

共存という簡単な言葉ではダメだけど、私たち人間の生活も見直さなければクマ問題だけではすまない未来がすぐ近くにある気がしています。

(エコビレッジ交流センター指導員 田川由美)

## 編集後記

能登半島地震から 9 か月。報道番組やニュース、友達からの情報からは、とても復興が進んでいるようには見えません。

今まで生活してきたところで、今までのように普通に生活がしたい、という最小限の希望が叶う日が、早く来ますように。こうして、願う事しかできないなんて、申し訳ないと思いつつ、遠く離れたこの地で出来ることを進めていこうと思っています。

今年度の支部交流会は、石川県が当番なのですが、早くから延期する旨お聞きしています。皆様の元気なお姿を拝見する楽しみは、来年に取っておきましょう。改めて被災された皆様へ、少しでも早く日常に戻りますよう心よりお祈り申し上げます。(野村)

越前市エコビレッジ交流センター【住所】福井県越前市湯谷町 25-25-2

TEL/fax 0778-28-1123 E-mail [info@ecovilg.jp](mailto:info@ecovilg.jp)

URL <http://www.ecovilg.jp/>



～風だより～

このとり

第 11 号  
2024.10.1

越前市エコビレッジ交流センター  
(公財) 日本鳥類保護連盟福井県支部

## 自然の中で自然な出会いを楽しむ

日本鳥類保護連盟福井県支部 田中綾子

ウグイスって地鳴きでもさえずりでもものすごく存在感があるくせに、その姿はなかなかお目にかかることができない。藪から藪へと低空飛行する姿はまるで忍者のよう。「ホーホケキョ」の鳴き声を頼りに探しても、枝葉の茂った樹木の中で気持ちよさげに歌っていることが多い。SNS で見かける木の枝のてっぺんでさえずる写真は合成じゃないかと疑いたくなるほど私にはあまり縁がない。



まだ肌寒い春先だっただろうか、ときどき探鳥する公園で「ホーホケキョ」の声がする方向に歩いていくと、その先にはカメラを抱えた人影があった。私の姿を見つけると「ウグイスですか？こうすると出てきてあの枝にとまりますよ」と慣れた手つきで持っていた IC レコーダーのスイッチを ON。あたりに響く「ホーホケキョ」、枝先に止まるウグイス…いやいや違うでしょ。写真を撮るために鳴き声を流しているの？そんなことをして撮った写真が嬉しいの？いろいろ言いたかったけど逆切れされると怖いので「あっ、そういうのは好きじゃないので」とだけ言ってその場を離れた。

どうしてあんなことするのだろう、この公園好きだったのにもう来たくないなあ、と思いつつ、でも興奮が収まってくると、もしかしてただ単にバードウォッチングの基本的なマナーを知らなかっただけかもしれない、きちんとお話ししたほうがあの人のためにもよかったのかも、とちょっともやもやしながら公園を後にした。

そういえば、隣の公園でミヤマホオジロを撮ったとき、そのときは気が付かなかったのだが、帰宅後パソコンで写真を確認したら地面に生米が写っていた。都会の公園では平然とミルワームが置かれていて、餌付けされた個体を撮る集団がいるらしい。野鳥が住む自然の中にお邪魔して、「そろそろあの鳥が来ているはず」という予想が当たって喜び、「まさかこの鳥に会えるとは」と驚き、「今日はスズメしか会えなかった」と肩を落とす、自然に左右されるからこそバードウォッチングは楽しいと思う。(注:私はスズメも大好きです)

(今回、坂口に来られている M さんに、ひと言書いていただきました)

坂口地区で勤め始めて半年が経ちました。

坂口の風景は懐かしく、子供の頃を思い出します。

春、小さいくつもの田んぼを近所の方が集まって田植えをしていたこと、

私は、その横の小川でメダカを捕まえていました。

秋、稲の匂いがする“はさば”の陰でお昼を食べたこと、

母がギザギザの鎌で梨の皮をむいてくれて、とても美味しかった。

思い出しながら、今年のお米は特別に美味しいだろうと思うのでした。





## 「第7回 コウノトリの生息を支える市民交流会」



去る7月15日(月・祝)、見出しのイベントが、「あさぎり荘」(兵庫県豊岡市城崎)を会場に開催されました。

第1部の村岡浩一氏(日本動物園水族館協会会長・よこはま動物園ズーラシア園長)による基調講演「コウノトリがつくる明日の日本～本当の豊かさを共有するために～」は、今まで拝聴したコウノトリに関する講演の総まとめのような感じで、豊岡まで車を走らせた疲れも何のその、じっくり聴かせていただきました。「生態系の回復や改善が最重要課題」「人間がこわしたもののや人間が失わせたものは、人間にしか元に戻せない」ということを再認識させていただきました。

続いて、「コウノトリ市民科学の現状と展望」という演題で、安川雅紀氏(東京大学地球環境データコモンズ准教授)のお話を聴き、第1部が終わりました。

第2部では、コウノトリの野外繁殖が成功した各地の報告会がなされて、実際に聞いてみないと分からない事例ばかりで興味深い内容でした。「日本コウノトリの会」の総会も兼ねての市民交流会開催で、イベントを企画する者にとっても非常に学ぶべきことが多かったイベントでした。

### ～福井で過ごすコウノトリの行動から見えてくること～

日本コウノトリの会が主催、小浜市が後援のコウノトリシンポジウム(勉強会・研修会)が、8月24日(土)「まちの駅 旭座」(小浜市)を会場に開催されました。

コウノトリ市民科学(<http://stork.diasjp.net/>)のシステムを作られた安川雅紀氏(東京大学地球環境データコモンズ 准教授)による、「目撃情報の共有 ～コウノトリ市民科学の役目～」と題した講演や、コウノトリ市民科学のデータ分析をしている大坂真希会員より、「コウノトリ市民学から読み解く 福井県のコウノトリ」のお話をお聴きしました。

その後、私もパネラーの一人として壇上に上がり、コウの会(小浜市)とのつながりを中心に活動報告させていただきました。どうしてもお伝えしたかったことは、人と人とのつながりの中で保全作業が進むことと、野外の個体の死因の約5割が、人間が作り上げたもの(獣害予防資材、電線、電柱、鉄塔、車など)であるということをお忘れずに、人間は保全の手を緩めてはいけないということです。絶滅したコウノトリを復活させて、後は自然に任せるでは無責任だと思います。たくさんの生きものが生息する環境を戻そうとする取り組みがもっと広がっていくといいです。(事務局 野村)



あさぎり荘の窓から

## 部子山に行こう！

日本鳥類保護連盟福井県支部長 林 昌尚

8月18日(日)、エコビレとの共催で「部子山に行こう！」を行いました。参加者はスタッフを含め17名。3年目の企画になりますが、残念ながら今回もほとんど霧(雲)の中で、周辺の風景を楽しむことが出来ませんでした。(先週、下見を行った際は道中霧雨が降っていましたが、山頂は快晴で360度雲海といった素晴らしい光景に出会うことが出来ました)

下見&当日も含め気になったことがあります。例年ですとこの時期にはまだアサギマダラがかなりの頭数見られるのですが、今年は下見の際に見たほんの数頭だけ…当日は霧が深かったせいか、1頭も見つけることが出来ませんでした。その一番の原因はニホンジカの食害だと思われます。道端にたくさん生えているはずのアサギマダラの蜜源である『ヒヨドリバナ』がほとんど見当たりません。それどころか、猛毒のヤマトリカブト以外の植物が根こそぎ食べられてしまっているのです。部子山に渡ってくるアサギマダラが、あと数年で見られなくなってしまうのではないのでしょうか!?

鳥に関しても極端に少ないように感じました。下見の際、アマツバメ・ウグイス・ソウシチョウ・ヤマドリなど、ほんの数種類の鳥しか見ることが出来ませんでした。その中で特定外来種である『ソウシチョウ』の繁殖が目立ちます。この鳥は江戸時代に日本に持ち込まれたものが自然界に放たれ、日本中に広がっているようです。

本年度に入ってから、部子山は「自然環境保護や交通事故防止のため」山頂から4.6キロ地点に鎖が張られ通行止めとなっています。今回は特別に通行許可を申請して通行させていただきました。鎖が張られた地点まで来てみると、鎖に設置された鍵がバールか何かで壊されていました。こういったことをするほんの一握りの輩が、普通に自然や山を愛する人たちに迷惑をかけています。残念なことです。

